

—平成30年 <sup>しわす</sup>師走（12月）のことば—



やはり温暖化なののでしょうか、十二月というのにびっくりするほど暖かいですね。

十二月と言えば思い出されるのが臘人<sup>ろうはつおおぜっしん</sup>大接心です。十二月八日の明けの明星をご覧になってお悟りを開かれたお釈迦さまに倣<sup>なら</sup>って、禅宗の専門道場では一日から八日未明までを一日として不眠不休の修行が行われます。三十数年前の京都では、その初日から雪が舞い込む開け放たれた坐禅堂で、“寒”と一枚になって坐ったものです。坐って坐って石仏の如く坐るのが禅宗特有の修行かも知れません。

先日、安永管長様の提唱の中で、「指輪のたとえ」というインドの昔話が紹介されました。

昔、インドのとある村の蓮池のほとりで、宮殿から散歩に訪れていた姫がふとした拍子に大切な黄金の指輪を池の中に落としてしまったのだそうです。侍女たちは指輪を拾おうと大慌てで池の中に入って底を探り始めました。しかしなかなか見つかりません。そこに森の賢者が通りかかって「皆の者よ、池から上がりなさい。そして静かに待ちなさい。」と諭しました。賢者の言葉に従って侍女たちは池から出ました。そしてしばし静かに待ちました。すると濁っていた池の水が少しずつ澄んでいくその時、太陽の光が池の底にまで差し込み、キラリと輝きを発しました。こうして無事に指輪は見つかって、めでたしめでたし…というお話でしたが、池の中でバタバタと探し回らなくても、指輪の方から光を放つ。つまり、本来の自己を探求する修行者も、貪欲に探し回っても決して見つからぬ。体を調べ、呼吸を調べ、心を静かに調べたなら、本来の自己の方からキラリと光るものだという事なのです。

お釈迦さまは明けの明星をご覧になってお悟りを開かれたと言われてはいますが、光り輝く本来の自己に目覚められたというのが正しいのだと思います。

# 禅の智慧に学ぶ

第56回 方広寺青年会 ふれあい法話



2018年  
12月9日 日

申込み  
手続不要

入場  
無料

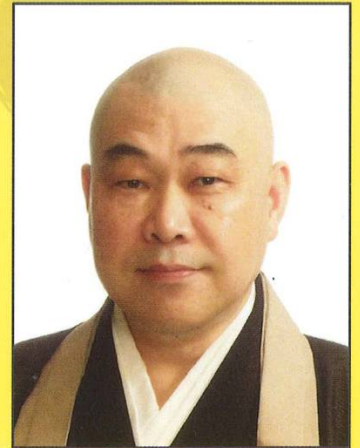
14時30分 開場 15時00分 開会

会場

イズモ葬祭 イズモホール浜松 弐番館

〒430-0906 静岡県浜松市中区住吉1丁目11-23 TEL.053-474-1111

駐車台数には限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。



講師：方広寺派管長  
安永祖堂 老大師

1965年 愛媛県生まれ。  
花園大学卒業。  
天龍寺平田精耕老師に就いて参禅。  
天龍寺国際禅堂師家。  
花園大学教授。  
平成30年4月1日方広寺派管長就任。

主催 方広寺青年会  
後援 大本山方広寺

## 交通機関のご案内

遠州鉄道 八幡駅から1.4km / 助信駅から1.5km

### ●バスのご案内

JR浜松駅北口バスターミナル14番乗り場

8・51番  
「浜松学院大住吉西」バス停より徒歩5分

JR浜松駅北口バスターミナル15・16番乗り場

40・41・43・44・45・46・47・48番  
「静岡大学」バス停より徒歩10分

## 会場案内図

